

かけがえのない子どもの明るい未来のために

不登校児童生徒への対応

発行
平成29年4月

発行者
北海道立教育研究所
研究・相談部

不登校とは

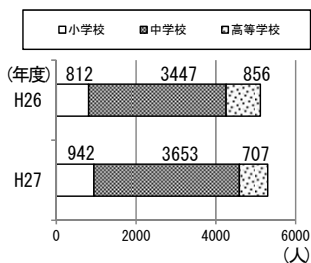
不登校は、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）」によると、右のように定義されています。

「不登校児童生徒」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため、年度間に連続又は断続して30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたものをいう。

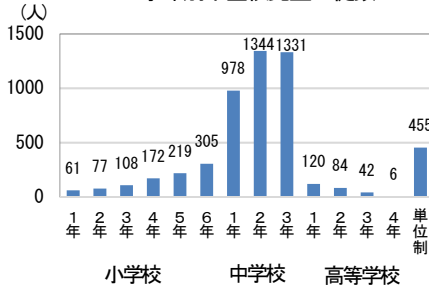
不登校の状況

<北海道の公立学校における不登校児童生徒の現状>

H26・H27 校種別不登校児童生徒数



H27学年別不登校児童生徒数



参考：「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）」平成29年3月

平成27年度の北海道の公立学校における不登校児童生徒数は、前年度と比べ、小・中学校ともに増加し、全国と同様の状況となっています。

学年別の不登校児童生徒数を見ると、小学校から中学校へ進学する段階での不登校児童生徒数が、大幅に増加する傾向が見られます。高等学校では、不登校生徒数そのものは減少していますが、一方では、高等学校1年生で中途退学する生徒が少なくないことから、各学校においては、不登校への対応として、家庭や関係機関と一体となった取組を進めるとともに、学校種間の一層の連携を図ることが必要です。

不登校への対応

■ 不登校の前兆の把握

児童生徒の心のサインを見逃さずに迅速な対応をするためには、日頃から、児童生徒との信頼関係を築くよう、共感的、肯定的な理解に努めるとともに、児童生徒一人一人を様々な視点から見つめ、その変化に気付くことが大切です。

そのための有効な方法の一つとして、チェックシートの活用があります。

チェックシートを活用することにより、複数の教師が共通の観点で児童生徒の状況を確認できるようになります。また、教師間で児童生徒に関する情報交換をする際に、観点に沿って整理したり課題を明確にしたりすることが可能となり、焦点化した指導を実現することができます。さらに、保護者に対し、学校での児童生徒の状況について、多面的で具体的な情報を伝えることが可能となります。

■ いじめによることが疑われる不登校について

いじめによることが疑われる不登校は、「いじめ防止対策推進法」の「重大事態」に当たります。「重大事態」に関しては、速やかに、適切な方法により事実関係を明確にするための調査を行うこととされています。そのため、これまで以上に不登校の理由の的確な把握と対応が必要となります。

<チェックシートの例>

不登校傾向診断チェックシート	
学習面	
チェック欄	
1	授業に集中力がなくなり、ぼんやりしている。
2	成績が急に落ちた。
3	特定の教科を嫌うようになった。
4	忘れ物が多くなった。
生活面	
【対人関係】	
チェック欄	
1	友達がいなくなり、一人でいることが多くなった。
2	先生を避けるようになった。
【欠席・遅刻・早退】	
チェック欄	
1	理由が明確でない遅刻や早退が多くなった。
2	休日の翌日に欠席が多くなった。
3	断続的な欠席が目につき、欠席の理由もはっきりしなくなった。

※北海道立教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=191

■ 魅力ある学校づくりの推進

児童生徒が不登校とならないようにするためには、学校と地域社会とのつながりを強めた開かれた学校づくりを進め、その上で、分かる授業や豊かな体験活動の充実など魅力ある学校づくりを進める必要があります。

<魅力ある学校づくりの例>

- 「居場所づくり」「絆づくり」の場としての学校
 - ・人間関係づくりや社会性の育成を重視した学年・学級経営案の作成
- 学力の定着に向けたきめ細かな教科指導の実施
 - ・習熟度別の指導の実施
 - ・基礎学力の定着に向けたきめ細かな指導の実施
 - ・補足的な指導の充実
- 安心して通うことができる学校
 - ・いじめや暴力行為を許さない学級づくり
 - ・問題行動への毅然とした対応
 - ・教職員による体罰や人権侵害の根絶 等
- 学級活動、学校行事等の特別活動
 - ・学級（ホームルーム）活動の充実
 - ・構成的グループエンカウンター等を活用した人間関係づくり
- 学ぶ意欲を育む指導
 - ・学校外の多様な人材や機関との協力
 - ・将来の夢について考える機会を与える体験活動
- 発達の段階に応じたきめ細かな配慮
 - ・中学校、高等学校における体験入学の実施
 - ・入学時や年度初めのオリエンテーションやガイダンスの充実

■ 支援プランの作成

不登校に対しては、ただ「待つ」のみではなく、児童生徒の状態や必要な支援について「アセスメント（見極め）」を行った上で、適切な働き掛けや関わりをもつことが必要です。その際、児童生徒に関する様々な情報を個人カードに簡潔にまとめた上で、児童生徒理解に基づくアセスメントを行い、支援プランを作成します。

支援プランを作成することによって、情報が明確になり、共通理解が図られ、それぞれの立場でどのように支援すべきかという見通しが立てやすくなります。

<支援プランの例>

支援プランシート

問題の要因・背景

支援目標

		現在の状況	考慮すべき点 (問題点・考えられる背景等)	未来像 (どうなるとよいのか)
学習面 (取組の状況等)	+			
	-			

※北海道立教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=191

■ 校内外の支援体制の確立

不登校児童生徒を支援する中心的な組織として、校内に「不登校対策委員会」等を組織し、校長のリーダーシップの下、校務分掌や学年を超えた取組を進めたり、関係機関や適応指導教室を中心とした地域サポートチームと連携、協力したりしながら支援体制を整備します。

関係機関との連携に当たっては、情報交換（情報連携）に終始することなく、互いの意思の疎通を図り、それぞれの機関がそれぞれの役割を果たしながら取り組んでいくこと（行動連携）が必要です。

<支援体制の例>

